OCCH

No.26 2003. 11. 28

（財）大阪府文化財センター

Osaka Center For Cultural Heritage

大阪府立今宮高校の夏期集中講座における発掘体験学習

もくじ

P．2
- 平成15年度後期文化財講座
- 郷土の文化財を見学する会
- 金関理事が2003年度の大阪文化賞を受賞
- 水野理事長の古稀祝賀会

P．3
- カルチュアはっとり
- ミニ講座の実施
- 韓国から研究者があいついで来訪
- 屏風の下張

P．4
- 第47回大阪府埋蔵文化財研究会
- 讃良郡条里・太秦遺跡現地公開
- 体験学習の受入れ

P．5
- 普及活動をお手伝いすることになって
- 派遣団体懇談会
- 久宝寺１号墳の発掘調査報告書を発刊
- 赤木寛治さんを悼む

P．6
- 池島・福万寺遺跡から土製鋳型の外枠が出土
- 訃報 藤澤一夫理事

P．7
- Villa Romana a Cazzanelloの2003年度の調査

P．8
- 弥生文化博物館 冬の催しご案内
- 近つ飛鳥博物館 秋から冬の催し物のご案内
- 日本民家集落博物館 催しご案内（１～３月）

http://www. occh. or. jp

平成15年度後期文化財講座

前期講座「古墳時代の鏡」では、三角縁神獣鏡は中国北方で製作され、239年、卑弥呼が親魏倭王印を授けられるとともに下賜された銅鏡100枚にあたり、その後も遣使の度に与えられた鏡と考えられるということであった。後期講座は引き続き**「古墳のはじまりを考える」**というテーマで古墳成立史を各分野の先生方にお話いただく企画である。

大阪府中小企業文化会館（能力開発プラザと改名）のエル・おおさか南館への移転により、エル・おおさか南館10階南1023号室を新会場として、午後６時30分～８時の開催である。

第１回　11月20日（木）
「ヤマト王権の成立」
山尾幸久氏〔立命館大学名誉教授〕

第２回　12月18日（木）
「古墳の出現」
森下章司氏〔大手前大学人文科学部講師〕

第３回　１月15日（木）
「朝鮮半島の墳墓と日本列島の古墳」
吉井秀夫氏〔京都大学大学院文学研究科助教授〕

第４回　２月19日（木）
「新しい年代論と新たなパラダイム」
森岡秀人氏〔芦屋市教育委員会文化財課係長〕

第５回　３月18日（木）
「王権の成立と王墓の築造」
金関　恕氏〔大阪府立弥生文化博物館館長〕

郷土の文化財を見学する会

第４回例会は７月13日（日）に枚方市の枚方市立旧田中家鋳物民俗資料館、津田城遺跡等、長尾地区・藤阪地区・津田地区の山根街道沿いの遺跡や史跡を訪れました。

講師の三宅俊隆氏は地元ご出身でもあり、熱心に当地の歴史を語っていただきました。中世の山城、津田城の形成については最新の見解等も教えていただきました。

第５回例会は９月14日（日）に古市古墳群を訪れました。ここ数年連続して当地を訪れています。

ほぼシリーズ化した感のある上田睦氏による当会での案内ですが、氏の解説は人気があり、９月とはいえまだ暑いこの時期にしては多い80名を越える参加者の数でした。

最新の古墳研究の成果を詳細に説明をして頂きました。今回は、上田氏のもう一つの研究課題である野中寺や西琳寺のような古代寺院も見学しました。

第７回例会は10月12日（日）に高槻市西国街道（山陽道）沿いの遺跡を巡りました。

講師の高橋公一氏には、高槻城跡、嶋上郡衙や西国街道芥川宿、史跡今城塚古墳等について、高槻市の歴史に位置付けた解説をしていただきました。また、本年度創設された、しろあと歴史館を訪れ、学芸員の説明を聞きました。

当地が単なる新興の衛星都市ではなく、歴史豊かな町であることが良くわかりました。

金関理事が2003年度の大阪文化賞を受賞

当センター理事で、大阪府立弥生文化博物館の金関　恕館長が、2003年度の大阪文化賞を受賞された。金関氏は京都大学で考古学を学ばれた後、奈良国立文化財研究所を経て、天理大学で長く教鞭をとられた。飛鳥寺跡や川原寺跡の発掘調査をはじめ、三津永田遺跡や土井ケ浜遺跡、東大寺山古墳等々、多くの発掘調査に参加され、イスラエルでも調査にたずさわられた。大阪の遺跡に関しても、四天王寺や松岳山古墳の発掘調査等にかかわられた。特に第２阪和国道内遺跡調査会が行った、当該道路の建設に先立つ発掘調査では、坪井清足氏や故佐原　真氏とともに指導的役割を果たされた。

1991年の弥生文化博物館の開館以来、館長として博物館の展示・運営を指導され、同館の評価を高められた。また、史跡池上曽根遺跡の整備委員長として、同遺跡の整備事業を指導されてもいる。同氏に対する周囲の人々の人望はあつく、また同氏の博学ぶりは広く知られるところである。特に弥生文化研究における業績はきわめて重要である。

受賞のスピーチをされる金関館長
写真提供：大阪府

水野理事長の古稀祝賀会

当センターの理事長で奈良大学教授の水野正好氏が、本年８月14日に古稀をむかえられ、８月２日奈良市内で、奈良大学の教え子等約250人が集い祝賀会が催された。また『水野正好先生古稀記念続文化財学論集』と『山陵の丘から－水野正好先生主要著作目録－』が刊行された。前者は、117編の論文からなる、Ｂ５判２分冊、本文1,076頁の大冊で、水野教授門下生の面目躍如たるものがある。

水野正好先生の古稀をお祝いする会

カルチュアはっとり

当センターでは、日本民家集落博物館内に考古ならびに民具等の資料を展示する施設である「カルチュアはっとり」を、平成15年９月２日に開設いたしました。当センターの所有としては唯一の考古関係の展示施設で、小スペース（面積82㎡）ですが、よろしくご愛顧のほどお願い申し上げます。

同施設は、資料の展示以外にも、客席40人を収容でき、講演会、研究会又は体験学習の場としても利用が可能であり、スライド映写機の設備も整っていますので、皆様のご利用をお待ちしています。　（秋山　芳廣）

カルチュアはっとり全景

ミニ講座の実施

今年度の新規事業として、当センターと池上曽根史跡公園協会の共催による、ミニ講座フォーラム「匠の世界－日本の伝統技術は今－」を池上曽根弥生学習館を会場に４回にわたって開催した。各回のテーマと講師は以下のとおり。

第１回（６月22日）「瓦を語る－鬼瓦の変遷など－」小林章男氏（鬼師）、森　郁夫氏（帝塚山大学教授）。第２回（７月６日）「穴太衆とその心」粟田純司氏（穴太衆第14代石匠）、小田靖弘氏（都市計画家）。第３回（７月13日）「草葺きを探ねて」隅田隆蔵氏（茅葺師）、「発掘建物の屋根」石野博信氏（徳島文理大学教授）。第４回（７月27日）「古代の伝統建築について－木と釘を語る－」小川三夫氏（宮大工棟梁）、白鷹幸伯氏（鍛冶師）。

各回とも大変な盛況で、伝統技術を継承する名匠の貴重な話は大好評であった。なお当センターと日本民家集落博物館の共催によるミニ講座は来年２月から４回にわたり、同博物館で開催の予定。

韓国から研究者があいついで来訪

今夏、韓国から考古学研究者があいついで当センターおよび発掘現場、関連施設を訪れた。

６月30日　林　孝澤団長（東義大学校教授）をはじめとする韓国大学博物館協会一行。

７月７日　李　栄文木浦大学校教授および崔　完奎円光大学教授。

７月14日　木浦大学校博物館の丁　英姫学芸研究士その他一行。

８月７日　金　雄信氏その他畿甸文化財研究院の一行。

来訪の目的は、近畿の博物館視察の一環であったり、発掘調査を行う財団の実態視察であったりとさまざまであったが、その中で大規模発掘の現場や、出土遺物の保存処理、スタジオでの遺物撮影の実状等々、かなり詳細に視察され、意見交換が行われた。

なおこれ以外にも、９月19日には申　敬澈釜山大学教授と千　羨幸氏（釜山大学）が来阪され、大阪の友人16名が集い、一夕懇親の会を開いた。当センターからも６名が参加した。参加者には、前日に京都で行われた申　敬澈教授の講演資料が配付された。その内容は日本の古墳時代の年代観にかかわる、詳細な議論であり、重要文献となるものである。

また、10月後半には当センターから、考古学国際交流研究会事業で７名の職員を韓国に派遣し、韓国の考古学研究者と交流、意見交換を行った。これは当センターの事業を海外にも紹介し、彼地の最新情報を吸収、今後の調査研究活動にいかすことを目的としている。今回の研修の報告は、本誌次号に掲載を予定している。

屏風の下張
－日本民家集落博物館 秋の企画展を見学して－

10月１日から日本民家集落博物館で開催されている、秋の企画展「世界遺産白川郷－合掌造りと大家族－」を見学した。数多くの写真や解説パネルが、見る者に合掌造り民家の魅力やそこに暮した人々の生活ぶりをよく伝えてくれる。幾つか展示された民具もさまざまに興味深い。その一つに枕屏風がある。題せんによると、「チョウダ」（寝室）の戸主夫婦と長男夫婦の間仕切りとして置かれたとある。表装が破れて下張が見えている。展示品目録によれば、明治～昭和初期のものとされる。

下張の中に和綴じ２頁１枚分を何枚か張りあわせたものがあって、裏側からではあるが、『評註正文章軌範』と読める。『文章軌範』は宋の謝枋得が編纂した書物で、我が国でも江戸時代以降、数多くの翻刻本や評註本が刊行され流布している。その巻之一、「送石洪處子序」の冒頭部分が認められるが、名の「洪」が省略されている。この『文章軌範』が「いつ」、「どこで」刊行されたものか、調べる余裕はないけれど、枕屏風との取りあわせに少しのおもしろさを覚えたことであった。　（福岡　澄男）

第47回大阪府埋蔵文化財研究会

平成15年９月27日（土）に第47回大阪府埋蔵文化財研究会を開催しました。

テーマは「大阪府における古代遺跡の発掘調査」です。発表が８本、講演が１本を数えました。

大阪府には、古代の遺跡は少なからず存在します。しかし、遺跡の性格を押さえることが難しいのが実状です。また、文献などの文字資料との関係も重要です。

そこで、今回、それぞれの遺跡の性格をどのように考え、追及するかを中心に発表して頂き、意見交換をしようと考えました。記念講演者である山中氏にも集落を類型化して頂き、それらを文献と照らし合わせた場合、遺構をどう位置付ける事ができるかを中心に論じていただきました。

午前中は、最初に小阪合遺跡の調査成果を当センターの本間元樹が発表しました。次に渋川廃寺の調査について（財）八尾市文化財調査研究会の坪田真一氏が、当センターの市村慎太郎が新上小阪遺跡の調査を発表しました。両遺跡とも「村主（すぐり）」の字を記した瓦や土器が出土していることは興味深いものがありました。

（財）大阪市文化財協会の李陽浩氏には難波宮発掘の最新成果を発表していただきました。来年は、難波宮の調査が始まってからちょうど50年目を迎えるそうです。

昼食後、奈良文化財研究所の山中敏史氏に「古代の末端官衙と集落」の題で記念講演して頂きました。

午後の発表は高宮遺跡古代大型建物群について大阪府教育委員会一瀬和夫氏が高宮廃寺との関係を発表されました。

また、企画性の高い建物群を検出した善根寺遺跡の性格を東大阪市教育委員会菅原章太氏が郷衙と考察されました。

現在も調査中のはざみ山遺跡の調査を当センターの三好孝一が発表しました。

富田林市教育委員会粟田薫氏が最後の発表者となりましたが、新堂廃寺跡・オガンジ池瓦窯跡から出土した瓦資料の編年観を述べられ、注目を集めました。

出席者は67名でしたが、内容の濃い研究者同士の質疑の交わされた研究会となりました。

讃良郡条里・太秦遺跡現地公開

10月４日、讃良郡条里遺跡及び太秦遺跡の現地公開を実施した。これらの遺跡は、昨年度より国土交通省近畿地方整備局浪速国道事務所の委託を受け、第二京阪道路建設に伴い発掘調査を実施している。

現地公開は、地域住民の方々を対象に実施した。今回は、現地公開開催の通知も近隣住民の方々へのビラ配布とセンターホームページへの掲載にとどめたが、当日は晴天に恵まれ270人もの沢山の方々にご参加いただいた。２遺跡同時公開ということで、讃良郡条里遺跡から太秦遺跡間の移動にあたり誘導を行った。

讃良郡条里遺跡では、現在３箇所の調査区で調査を行っておりその内１箇所について、公開の対象とした。この調査区では、弥生時代後期末から古墳時代初頭の建物や井戸・溝などが見つかっている。なかでも注目されるのが、今回の公開のメインともなった周囲に溝をめぐらす竪穴建物である。この種の建物は、今回公開した調査区とその東側の調査区２箇所で確認しており、各調査区の南側に集中することから集落の北の端に当たると考えている。

一方、太秦遺跡は古墳時代中期中頃から後半の古墳12基・弥生時代中期の竪穴住居１棟が見つかり公開することとした。古墳は、2001年度の調査とあわせると全部で25基確認できたこととなる。特に方墳を中心に密集して作られていることが確認でき、これらの古墳の配置から被葬者間の密接な関係がうかがわれると考えている。

これからも各遺跡の今後の成果に、期待したい。

最後になったが、当日公開にあたりお手伝いいただいた方々や休日にもかかわらず足を運んでいただいた方々に、感謝したい。　（西田　倫子）

現地公開風景

体験学習の受入れ

◎　総合学科、今宮高校の夏期集中講座『考古学入門』の発掘体験学習が、好天の７月28日から８月１日までの５日間、大坂城跡発掘調査現場で行われた。参加者は、女生徒８名（３年生３名、２年生５名）と引率教諭１名であった。

指導スタッフは、大坂城跡の担当者を中心に、理事長、普及部長、調査部の技師の応援を得て実施された。

生徒達は熱心に取り組み、連日の炎天下にもかかわらず、特に生徒たちの希望でコマを増やすことになった外業実習は、江戸時代の遺構を発掘体験し、未知の遺物を求めて時間を忘れて作業に打ち込んでいた。寛永通寶・謎の金箔陶器・天神様や虚無僧の土人形・煙管等を堀り出し、発掘の楽しさを感動体験していた。また、担当技師の出土品についての解説に興味を示し、ますます発掘に力が入る様子であった。室内での作業にも楽しく取り組み、講義内容との関連で、復元大型倉庫の見学や大阪歴史博物館も見学した。

最後に、発表会を行って５日間の日程を終了した。
◎ ７月16日 八尾高校で、２年生31人を対象に「遺跡の発掘調査研究と歴史遺産の保存」について、普及部長が講演。
◎ ７月25日 久宝寺遺跡の発掘調査現場で、中学校と高等学校の社会科担当の教諭28名を対象に研修を実施。
◎ 10月16日 東京都町田市の和光高校の生徒24名が、古代史研究の実技として、讃良郡条里遺跡で発掘体験。

（普及部　嘱託員　山岡　平和）

水野理事長の魅力あふれる講義

普及活動をお手伝いすることになって

博物館や資料館は「見てもらう」ことが全てと云っても過言ではない。知名度の高い博物館でも、入館者数が目標に達せず苦労している。文化財に興味を持つ限られた人達だけが訪れ、リピーターも少ないということでは、今後も博物館等の入館者増を期待できない。文化財の関係者は、文化財に対して興味や関心を示す人達の裾野が拡がるように工夫や努力をする立場にあるのではないだろうか。

当センターの通信誌「ＯＣＣＨ」の中で、ここ数年の当センターにおける小学校・中学校・高校のバラエティに富んだ教育活動が紹介されている。しかし、ここに紹介されている教育活動を知っている学校教育関係者はどれだけいるだろうか。小生も、普及部にくるまでは、文化財センターというのは発掘調査と保存をする財団であるという認識であった。

当センターが学校教育と係わった内容をつぶさに見ると、教科学習のみならず、総合学習や職業体験、進路指導など、教育活動のあらゆる場面で活用できる幅広いものとなっている。さらに、遺物等を見たり触れたりするだけではなく、作業学習を通じて成就感や達成感が味わえるというすばらしい学習場面がある。

21世紀を担う子供達が文化財に体感的に係わることのできる貴重な場があることを、普及部の一人として、府下の多くの学校に積極的に情報提供していきたい。当センターと学校とが連携して、心豊かな子供達を育成することは、当センターにとっても学校にとっても多くのプラスになると確信している。

併せて、事業委託者への感謝の気持と、忙しい日常業務の中で、心のこもった指導をする技師の方々への感謝の気持を、子供達にどのように感得させていくかということも関係者にとっては大切な教育課題だと思う。（山岡平和）

派遣団体懇談会

第二京阪道路関連の発掘調査は、道路供用日程の切迫からセンターの人員のみでは調査体制を確立できなかった。そのため、平成14年度に（財）京都市埋蔵文化財研究所から３名、15年度には同研究所からさらに10名、(財）大阪市文化財協会から２名、(財）和歌山県文化財センターから１名の派遣を受け、調査体制を整えた。

７月９日、派遣３団体の役職員を招き、派遣職員が担当する発掘現場の視察と懇談会を開催し、今回の派遣についての問題点と課題について話し合った。

久宝寺１号墳の発掘調査報告書を発刊

完存する割竹形木棺が出土したことなどで考古学界はじめ多くの人々の注目を集めた、八尾市久宝寺１号墳の発掘調査報告書が刊行された。報告書名は『久宝寺遺跡・竜華地区発掘調査報告書Ｖ』で（財）大阪府文化財センター調査報告書第103集に数えられる。

久宝寺１号墳は、出土土器から布留式最古段階に築造されたことが判明しており、先行する方形墳丘墓群の中にあって、墳頂部四隅に底部穿孔壷を配置したり、頂部中央に割竹形木棺を南北方向に安置するなど古墳の様相をうかがわせ、河内平野における弥生墓制から古墳への変遷を解明する上できわめて重要な位置をしめている。

赤木 寛治さんを悼む

９月２日、朝から会議のため大阪市内に出向いていた所、本部より設計係主査である赤木寛治さんの訃報が入った。先週まで元気に出勤していたので俄に信じられず、電話元で絶句してしまった。死因は肝硬変、前から悪かったようであるが、享年50才のあまりにも若い逝去であった。

赤木寛治さんは、昭和47年大阪府に奉職、技術吏員として主に土木畑を歩まれた。この４月１日に大阪府教育委員会を経由してセンターに出向され、第二京阪関連事業急増等による業務多忙の中、設計要員として着実な仕事振りを発揮していただけに、本当に残念なことであった。衷心よりご冥福をお祈り申し上げる。

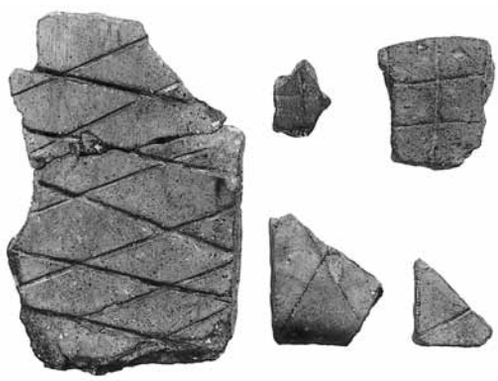
池島・福万寺遺跡から土製鋳型の外枠が出土

池島・福万寺遺跡は、東大阪市池島町及び八尾市福万寺町にまたがって位置しています。この地域周辺は、条里制地割りが良好に残る地域として知られています。現在までの調査では、弥生時代前期から現代にかけての遺構・遺物が多数確認され、特に農耕関連遺構は農耕技術の変遷を知る上で重要な資料となっています。

当センターでは恩智川治水緑地建設に伴う池島Ⅱ期の調査を、平成13年度より実施しています。Ⅱ期地内の調査は、遺跡の範囲を確定する確認調査から始まり、現在は既設の水路を改修し外側に切替える工事に伴って調査が進められています。

今回、池島水路その３の調査で、古墳時代の遺構・遺物と共に土製鋳型の外枠と考えられる土器が出土しました。調査地は池島Ⅱ期地区内の南東端にあたり、幅3.5m、延長約200mで逆Ｌ字型に屈曲した形状をしています。
古墳時代の遺構は調査区の屈曲するコーナー付近で検出され、多数の溝・ピット・土坑・落ち込み等が見つかりました。出土遺物は古墳時代初頭（庄内式）を中心とする土器が多く見られ、特に土坑の１つからは甕・高坏・小型丸底土器などが多数出土しました。鋳型の外枠と考えられる土器は５点ありますが、本来の形状は不明なものです。遺物包含層より出土した最も大きな破片は、長さ約15.0cm、幅約10.0cmを測り長方形を呈する板状のものになると思われます。表面は緩やかに内湾する平坦面を持ち、格子状のやや深い線刻が施されています。裏側には丁寧なヘラミガキが施され、把手が作り付けられています。他のものは小片で、表面に施される格子状の線刻はやや浅く、裏面にはヘラミガキや指頭圧痕が見られます。内２点は、遺構内より出土し、側面に面取りを施し角を持っています。他に、外側に面取りを施し緩やかなカーブを持っている破片もあり、円盤状の鋳型の可能性が考えられます。今回の調査で検出された多くの遺構・遺物は、近辺に集落の存在を示す痕跡だと思われます。今後、出土した鋳型の詳細を含め、当時の様相が解明されてゆくことが期待されます。

（田中　龍男）



池島水路その３出土遺物

訃報　　藤澤　一夫理事

当センターの理事で四天王寺国際仏教大学名誉教授の藤澤一夫氏が、11月３日午前８時、急性心不全のため豊中市曽根東町５－２－18の自宅で逝去された。享年91才。

藤澤氏は1912年（大正１）10月11日、岡山県で誕生。小学生の頃、大阪に転居の後、考古学に親しまれ、やがて東京考古学会の中心メンバーの一人として、森本六爾、坪井良平、小林行雄、藤森栄一、杉原荘介といった人々と共に、日本の考古学界をリードする研究活動を展開された。特に1941年に発表された「摂河泉出土古瓦の研究－編年的様式分類の一試企－」は、屋瓦研究のバイブル的基本文献として、あまりにも著名である。

当センター主催行事でのご講演の様子（1986年10月11日）

1940年に大阪府に就職、その後朝鮮総督府博物館に赴任、戦後再び大阪府に勤務され、文化財の保護と考古学研究の仕事を続けられた。1969年に大阪府を退職された後も、帝塚山大学、四天王寺国際仏教大学等で教鞭をとられるかたわら、各地の文化財保護審議委員や専門委員、団体の役員、市史等の編纂委員を歴任され、後進の指導にあたられた。

1972年に当センターが設立されると同時に理事に就任され、以後一貫して当センターを指導していただいた。

1983年秋には大阪文化賞を受賞、1993年秋には勲五等瑞宝章を受けられた。

藤澤氏の柔和な表情と飄々としてユーモアたっぷりな語り口、そして該博な知識から生み出される、余人を寄せつけないユニークで鋭い論考に魅了された人は多く、昨年11月30日に大阪市内で行われた卆寿の祝賀会には、親しい友人、教え子等150人が出席して、氏のご長寿をお祝いし、ますますのご壮健を祈念したばかりであった。

Villa Romana a Cazzanelloの2003年度の調査

Villa Romana a Cazzanelloはイタリア半島中部の地方都市Tarquinia近郊の海浜部に所在するローマ時代の貴族の別荘遺跡である。東京大学文学部文化交流研究施設の青柳正規教授を代表として、1993年から科学研究費補助金等によって継続的に発掘調査が行われている。Tarquiniaはローマの北約100kmにあり、中世以降の城砦都市の面影をよく残した町である。しかし、もとはローマ時代以前のエトルリア人によって建設された都市であり、郊外の丘陵上には彼らが残した壁画墓室を伴ったネクロポリと呼ばれる地下式墳墓群が点在する。このようにエトルリア文化の色彩が濃いTarquiniaにあって、今回の調査は数少ないローマ時代の遺跡という点で注目されている。

遺跡は西にティレニス海を臨む海浜部に立地し、近代までは建築物の壁体の一部が地表に露出していたという。発掘調査は本年度で終了するため、重要遺構の保存修復作業の実施と共に、現地作業は最終局面を迎えた。今年の調査内容は新たな着手部分が少なく、過去の調査区域を含めた遺跡全体像の記録に主眼が置かれた。数日の準備期間の中で調査区全域の大掛かりな清掃を行い、写真記録のほかプロの撮影クルーによるハイビジョンカメラでの映像記録撮影が実施された。これまでの調査成果は2005年からイタリア、続いて日本で巡回展により公開される予定である。したがってここでは総括的に全体を見渡すことにしたい。

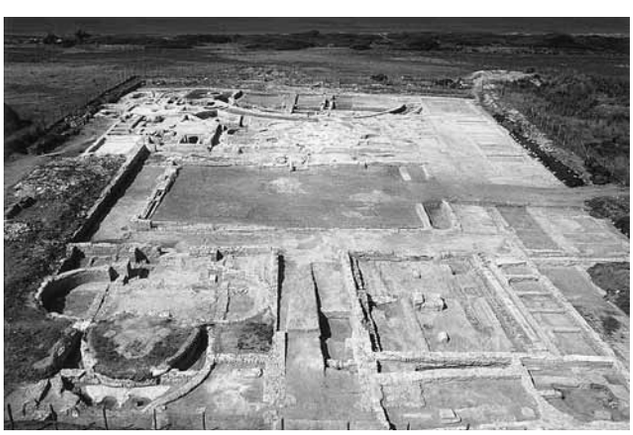
調査区は東西約75m、南北約60mの方形の範囲で、その全面から遺構が検出されている。壁体などは煉瓦、モルタルで構築された整然たる区画をもつが、遺跡の経営時期は共和制末期から帝政末期（紀元前１世紀末～５世紀頃）までの数百年間に及ぶため、当初設計の後に改築、増設、新設などが繰り返され、切合い関係などは極めて複雑な様相を呈している。平面プランは海岸線と直交する東西方向に中軸線が通っており、別荘の正面がティレニス海に面するように設計されている。各種の構造物は軸を中心にほぼ左右対称に近い平面プランをとる。遺構自体は調査区の範囲を越えてさらに東西南北に広がるが、庭園遺構など中軸上の主要遺構群が確認されている。

調査区の中央部付近には方形の中庭があり、その外郭を方形回廊が取り巻く。方形回廊の床面には狩人や獅子など、狩猟をモチーフとした色モザイクが遺存する。中庭は東西25m強、南北約15m強の規模で、その周囲に大理石の円柱が配されていたことが、倒壊した円柱や基礎の存在などから分かっている。中庭の西側の中軸上には八角形のプランをもつ広間があり、現在は失われているが部屋の中心に水盤などの構造物があったものと推定されている。また床面には色大理石が美しく敷き詰められ、少なくとも西側の部屋の入り口には両開きの扉を備えた痕跡がある。広間の西側には直径約30mで東に半円を描く前庭が存在し、外周には半円回廊が取り付く。回廊の床面には船や魚類など、漁労をテーマとした色モザイクが描かれ、方形回廊の狩猟のモザイクと対をなしている。地表下の構造物としては、中庭から前庭までの中軸に沿って地下を直線的に貫く中央排水路が確認された。したがってこれら一連の上部構造が別荘の開始期から存在した可能性もある。

中庭から前庭までの区画は面積も広く、庭園関係の中心的な施設とみられるが、その周囲は比較的小面積に仕切られた部屋が多く配置されている。調査区の南東には平面プランが三葉形を呈し床にモザイクを施した部屋もあるが、性格は分からない。調査区の南西、前庭の南に接して浴室群が設けられている。浴室は楕円形、半円形などがあり、床や壁面を大理石で化粧している。また中央排水路から浴場まで導水する暗渠遺構も確認された。

こうした別荘遺構の姿は廃絶する直前の状況を示している。学術調査のため、遺構保存との関係で下層の調査ができない部分もあるが、それでも遺構の切合いや出土遺物などから10期以上に細分することが可能であるという。

予備調査を含め10年を越える現地調査を終えて、ローマ近郊における別荘構造の核心に触れる様相が明らかとなってきた。今後行われる出土遺物の整理等を通し、別荘の変遷や、具体像の解明に期待する。　（西村　歩）



全景 東から撮影

八角形の広間と半円形の前庭

弥生文化博物館　冬の催しご案内

平成16年冬季企画展

文様を描く心

１月24日（土）～　３月７日（日）

文様を描く目的は見た目を美しく飾るためですが、権威や邪悪な霊をさえぎる呪力を表すという場合もありました。また、土器に残る製作具の痕跡が形式化して生まれた文様もあります。土器や木器、青銅器に描かれた文様を通して、それらを残した人々の心のうちにせまります。なお、期間中、学芸員による企画展セミナーを１回予定しています。

邪霊をさえぎる獣面と尖った葉の文様のある青銅器
（中国・戦国時代）

◆やよいミュージアムコンサート　12／21（日）ほか

◆ミニギャラリー「和紙ちぎり絵作品展」
1／12（祝・月）～25（日）ほか

◆（財）大阪府文化財センター小テーマ展示
「シリーズ　ここまでわかった考古学」
3／13（土）～28（日）

◆鼎談と研究発表会
①鼎談「考古学と実年代」3／14（日）
②「最古の土師器」「庄内式甕の誕生」3／21（日）

◆プレ春季特別展講演会＜（財）大阪府文化財センターとの共同研究発表会＞　3／27（土）

詳しくは博物館までお問い合わせください。(0725-46-2162)
http://www.kanku-city.or.jp/yayoi/

近つ飛鳥博物館　秋から冬の催し物のご案内

☆秋季企画展「壁画古墳の流れ　高松塚とキトラ」
12月７日（日）まで開催中

☆大庭脩前館長追悼会
11月29日（土）午後２時～４時30分
場所：博物館地階ホール　定員：100名（当日先着順）
※11月20日（木）～12月４日（木）は
大庭前館長の愛用品などを展示いたします。

☆冬季企画陳列「一須賀古墳群の調査　Ｂ支群」
１月20日（火）～３月14日（日）
○歴史セミナー
第１回　２月８日（日）午後１時30分～３時
「朝鮮半島からみた一須賀古墳群」
京都大学助教授　吉井秀夫
第２回　２月22日（日）午後１時30分～３時
「一須賀古墳群Ｂ支群の調査」
大阪府教育委員会文化財保護課課長補佐　堀江門也
場所：博物館地階ホール　定員：200名（当日先着順）
○一須賀古墳群講座「古墳群を歩く」２月１日（日）
時間：１時30分～３時30分　対象：こども～一般
定員：30名（事前応募が必要、詳しくは博物館まで）
応募締切：１月11日（日）必着

☆ 共同研究発表会
２月29日（日）13時30分～15時30分
（財）大阪府文化財センターと近つ飛鳥博物館の共同研究「墳墓と墓誌」に関する発表会です。
場所：博物館地階ホール　定員：200名（当日先着順）
問合せ先：大阪府立近つ飛鳥博物館TEL0721-93-8321
http://www.mediajoy.com/chikatsu/

日本民家集落博物館　催しご案内（１月～３月）

◆正月飾り展
―民家各地の正月飾りを再現展示―
＜1/6（火）～31（土）＞

◆囲炉裏に火を入れて
―館内いずれかの民家に火を入れます―
＜1/6（火）～3/31（水）の開館日10：30～16：00＞

◆民家の囲炉裏で暖まろう
―囲炉裏ばたでのお茶のサービスとわら草履体験―
＜1/10（土）～3/28（日）の土日祝10：30～16：00＞

◆ふるさとのお雑煮会
―民家のふるさとのお雑煮を囲炉裏ばたで再現販売―
＜1/11（日）・1/12（月）11：00～＞

◆餅つき体験　＜2/1（日）11：00～13：00＞

◆伝統芸能ミニ講座
①2/15（日）「農村歌舞伎つずうらうら」羽田 昇 氏
②2/22（日）「はにわにみる藝能」　水野正好 氏
③2/29（日）「農耕具と祭祀」　中村ひさ子 氏
④3/ 7（日）「椎葉神楽と民俗」　永松 敦 氏
＜各13：30～15：00、要申し込み＞

◆民家集落作品展（絵画、写真、俳句、その他様々な研究等）
＜3/7（日）～21（日）10：00～16：30＞
※2/20（金）～2/22（日）作品募集・受付

上記の催しについて、詳しくは博物館へお問い合わせください。皆様のご来館をお待ちしています。
（TEL：06-6862-3137）http://www.occh.or.jp/minka/